

# 中学校における自治体と連携した消費生活の授業実践

～甲斐市「やはたいぬ」活用プロジェクト～

Practice of Consumer Life Classes in Collaboration With Local Governments in Junior High School  
- The Kai City "Yahatainu" Utilization Project -

齊 藤 綾 馨      神 山 久 美  
SAITO Ayaka      KAMIYAMA Kumi

# 中学校における自治体と連携した消費生活の授業実践

## ～甲斐市「やはたいぬ」活用プロジェクト～

Practice of Consumer Life Classes in Collaboration With Local Governments in Junior High School  
- The Kai City "Yahatainu" Utilization Project -

齊 藤 綾 馨\*      神 山 久 美  
SAITO Ayaka      KAMIYAMA Kumi

キーワード：エシカル消費（倫理的消費） 地域連携 家庭科 中学校

**要旨：**SDGsや学習指導要領改訂を踏まえ、中学校「技術・家庭（家庭分野）」のC内容「消費生活・環境」の授業において、エシカル消費（倫理的消費）を実践する視点の1つである「地域の振興」に関わらせた「やはたいぬ活用プロジェクト」を、甲斐市役所商工観光課と連携・協働して実施した。

「エシカル消費の視点からグッズを企画しよう」として、消費者と事業者の両方の視点からどのような商品が良いか、事業者の立場でどのようなことを消費者に伝えたいか、消費者の立場で広告からどのようなことを知りたいかなど、消費者と事業者の双方の視点から考える学習活動を行った。地域からの依頼ということで、生徒は学ぶ意欲や地域への愛着、地域振興への意識を高めることができた。授業後の生徒の振り返りや教師の授業過程の見取りから、商品選択には社会や環境への影響などの視点があることを知り、生徒が消費生活について関心・理解を深めたと考えられた。

### I はじめに

学習指導要領の改訂では、前文及び総則において「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられ、各教科において関連する内容が盛り込まれた。この背景には、2015年に国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）がある。その目標12には「つくる責任つかう責任（持続可能な生産消費形態を確保する）」が設定されている。「倫理的消費」調査委員会（2017）では、この目標12と関連付けて、持続可能な経済社会の形成に向けて今の仕組みを変えていく上で、事業者や行政だけではなく「消費者が社会の一員としての責任を果たそうという認識」を持つことが重要と示した。そして、消費者がエシカル消費（倫理的消費）に取り組むこと、その普及に向けて学校教育で学び実践することが求められるとして、家庭科の授業の中での扱いを例として挙げた。

エシカル消費（倫理的消費）とは、地域の活性化や雇用なども含む、人や社会、環境に配慮した消費行動である<sup>1)</sup>。山梨県においても、2021年度からの第2次山梨県消費者基本計画の重点施策の1つに「エシカル消費（倫理的消費）の促進」が挙がっており<sup>2)</sup>、学校においてもエシカル消費（倫理的消費）に関わる積極的な取り組みが必要である。

エシカル消費（倫理的消費）の配慮の対象として「人」、「社会」、「環境」、「地域」などが示され、「地域への配慮」では「地域の振興」が買い物における大事な視点として示されている<sup>3)</sup>。この具体例の1つとして「地産地消」があるが、これは調理実習や給食の献立などに関わらせて、家庭科では

\* 甲斐市立竜王北中学校

多くの実践が行われてきた。さらに、エシカル消費（倫理的消費）の「地域の振興」に関する「地産地消」以外の授業開発も必要と考えられる。

新学習指導要領の理念として、「社会に開かれた教育課程」が謳われた。社会のつながりの中で学ぶことで子供たちは自分の力で人生や社会をよりよくできるという実感を持つことができ、これからの学校は、社会と連携・協働した教育活動を充実させることがますます求められている<sup>4)</sup>。

以上の背景から、本研究では、中学校「技術・家庭（家庭分野）」のC内容「消費生活・環境」において、エシカル消費（倫理的消費）の「地域の振興」に関わらせた実践を地域社会と連携・協働しながら試行し、その過程を考察することを目的とした。

## Ⅱ 授業実践

### 1. 授業の構想

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 技術・家庭編」の家庭分野C内容「消費生活・環境」では、課題をもって、持続可能な社会の構築に向けて考え、工夫する活動を通して、消費生活・環境に関する知識及び技能を身に付け、これからの生活を展望して、身近な消費生活と環境についての課題を解決する力を養い、身近な消費生活と環境について工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することをねらいとしている。

そこで、まず、授業を行うA中学校2年生を対象として、生徒の現状を明らかにするために、2020年9月に質問紙調査を実施した。

中学2年生89名の結果は、次の通りであった。「買い物で失敗した経験」が「あった」生徒は64.0%（57人）であった（図1）。この買い物で失敗した経験のあった生徒に、「買い物でどのような失敗をしたことがあるか」を尋ねた結果は（図2）、「買ったがあまり使わない」73.7%（42人）、「思っていたのとは違う」43.9%（25人）等が多かった。物資・サービスの選択・購入における意思決定プロセスで重要な、needsとwantsの区別や、情報の収集・整理を適切に行うことなどに関する課題が見いだされた。

「商品を選ぶときに最も大切にしていること」（図3）については、「価格」40.4%（36人）、「デザイン」28.1%（25人）が多い結果となった。一方、「できるだけ大切に長く使えるかどうか」9.0%（8人）、「環境への影響」0%（0人）と少ないことが明らかになった。また、エシカル消費（倫理的消費）の言葉の意味を知っている生徒は0%（0人）であった。

以上の結果から、生徒がエシカル消費（倫理的消費）に関する基本的な知識を習得し、エシカル消費（倫理的消費）の視点も導入して商品の選択・購入の意思決定ができるように指導する必要があると考えられた。商品の選択・購入について、生徒が重視してきた「価格」や「デザイン」の視点だけでなく、安全性、品質・機能、社会や環境への影響、アフターサービス等の視点にも着目できるように指導を工夫し、持続可能な社会の形成に参画できるような学習活動を行うことにした。

持続可能な社会の構築に向けた消費生活に関する授業例として、山梨大学附属中学校の「附属中オリジナルグッズを開発しよう」がある。自分たちが実際に使いたい商品を企画した授業で、消費者として商品を企画・購入するときに考えるべき権利と責任について理解させた上で、持続可能な社会の構築に向けて、商品を選ぶときには価格やデザインだけでなく、社会や環境に与える影響を配慮することなどを生徒に考えさせていた<sup>5)</sup>。また、神山（2006）の授業実践では、事業者・消費者の両側面から視点を変えて考えた学習活動が、消費者としてのメタ認知活動となることを示唆していた。

このような授業例も参考にして、本研究では、エシカル消費（倫理的消費）の「地域の振興」に関わる授業を構想した。具体的には、授業実践校のある山梨県甲斐市の市役所商工観光課と連携・協働して、甲斐市のマスコットキャラクター「やはたいぬ」に関するグッズの企画を、「やはたいぬ活用

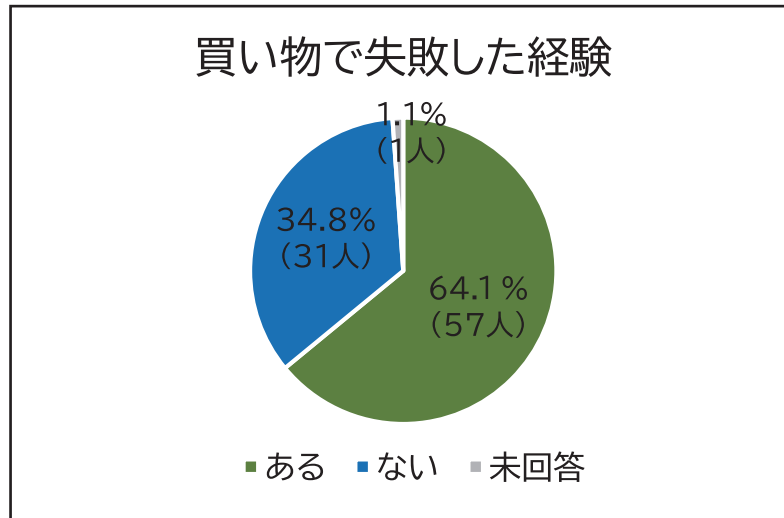


図1 買い物で失敗した経験について

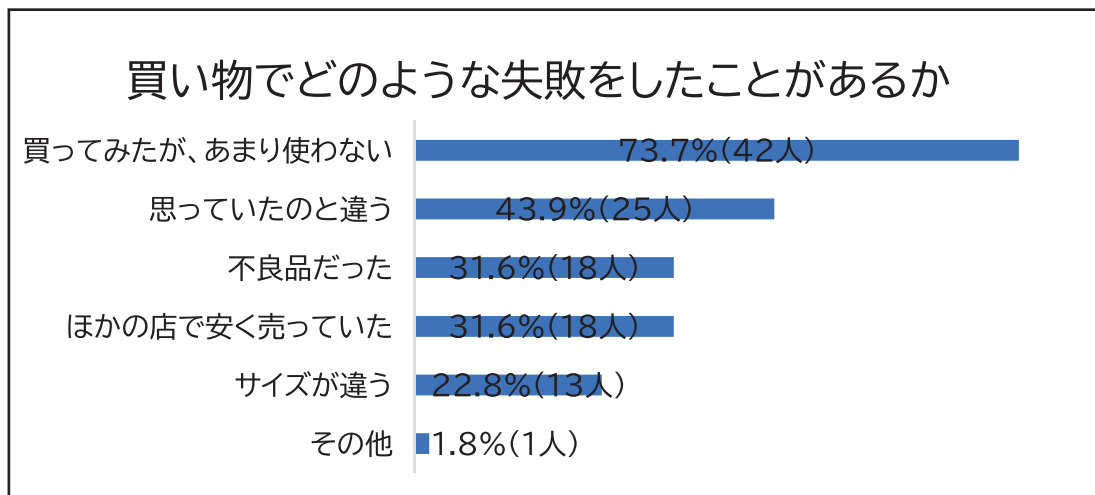


図2 買い物でどのような失敗をしたことがあるか

<注> 「買い物で失敗した経験」(図1)で「ある」と回答した57人を対象(重複回答可)

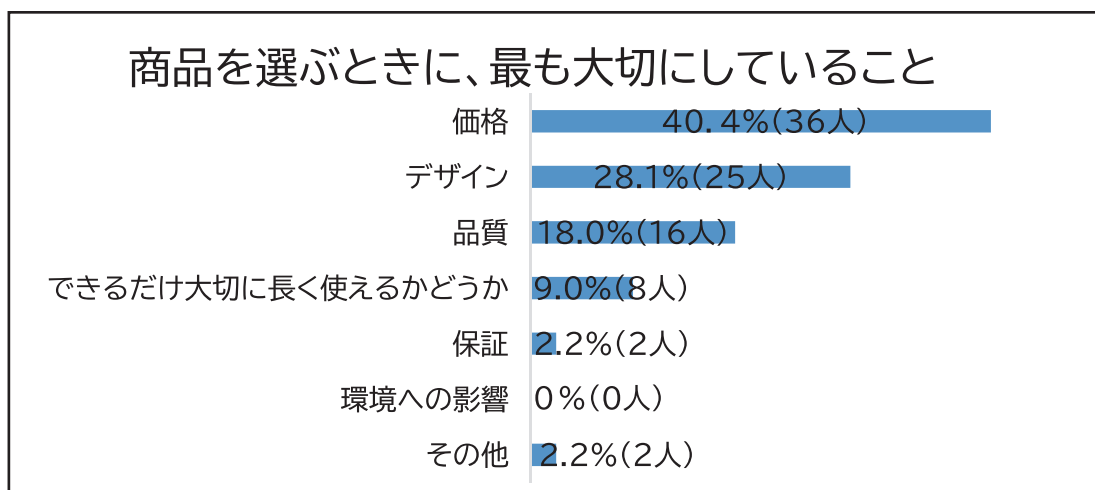


図3 商品を選ぶときに最も大切にしていること

プロジェクト」として中学生に取り組んでもらうことにした。生徒は事業者の立場で「やはたいぬ」グッズの開発を検討し、グッズの広告を作成する活動を行い、その後、消費者の立場でどの商品がよいか選択する学習活動を構想した。生徒が地域のことを調査し考えることで地域への愛着心を育み、地域の人と連携・協働しながら課題解決に取り組む力を身につけることを目標とした。

## 2. 授業の実際

### (1) 授業計画

授業実践は、2020年10月から11月、A中学校2年生3クラス(92人)で行った。消費生活に関する内容について、購入方法と多様な支払い方法、金銭管理と売買契約の仕組み、消費者の権利と責任、消費者被害の背景などについて学習した後に、「やはたいぬ活用プロジェクト」を計3時間で実施し、終了後に、よりよい消費生活に向けてまとめを行った。

### (2) 「やはたいぬ活用プロジェクト」の詳細

#### ①商品の企画

表1は、「やはたいぬ活用プロジェクト」の商品の企画に関する指導案である。前時までの学習内容、商品購入のプロセス、消費者の権利と責任などを振り返った上で、学習目標「やはたいぬ活用プロジェクト～エシカル消費の視点からグッズを企画しよう～」を提示した。

商工観光課職員のインタビュー動画では、甲斐市のマスコットキャラクター「やはたいぬ」も一緒に出演した。「やはたいぬ」の説明の後、地域振興のために「やはたいぬ」グッズの商品企画の依頼があった(表1の指導案「動画の内容」参照)。地域からのミッションという形となり、生徒は地域からのメッセージと商品企画の依頼に、活動への意欲が高められたようであった。

動画視聴後、図4のワークシートを用いて商品企画の目的をまとめ、班ごとに企画する商品を、「エコバッグ」、「タオル」、「ノート」の3種類から選択した。企画する商品を3種類にしたのは、「やはたいぬ」を用いた商品のデザインの工夫を通じて甲斐市をどのようにアピールするか、企画者として事業者の立場から広告をどのように工夫するかを重視して欲しいと考えたためである。

次に図5のワークシートを用いて、グループで選択した「エコバッグ」、「タオル」、「ノート」について、まずは個人でデザイン案や工夫点、アピールポイントの概要を考えた。その後、班で話し合い、広告の作成に向けて意見共有を行った。

表1 「やはたいぬ活用プロジェクト」の指導案

段階	時間	学習活動	指導上の留意点	評価方法
導入	5 分	○前時までの学習を振り返る。 ・OPPシートやワークシートを見ながら、学習を振り返る。  ○本時の学習内容を知る。	○前時までの学習について確認する。 ・前時までに学習した商品購入のプロセス、消費者の権利と責任などを取り上げ、消費者の視点で考えてきたことを振り返るようにする。	
		やはたいぬ活用プロジェクト～エシカル消費の視点からグッズを企画しよう～		
展開	15 分	○市役所の商工観光課職員のインタビュー動画（約7分）を見て、商品を作る目的を知る。 <div><p>&lt;動画の内容&gt;</p><ul style="list-style-type: none"><li>・「やはたいぬ」の紹介。</li><li>・甲斐市をアピールする商品をつくりたい。</li><li>・良い商品がつかれると、甲斐市の広報に役立つ。</li><li>・どんな「やはたいぬ」グッズの商品企画を求めているか。（中学生への依頼）</li></ul></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・次回、広告を作成することや、作成した広告は甲斐市のホームページに掲載されることを伝える。</li><li>・今回の商品企画がどんなエシカル消費(倫理的消費)に関わっているのか確認をする。</li></ul>	■評価方法 思考・判断・表現【ワークシート】
	25 分	○商品企画を行う。 <ul style="list-style-type: none"><li>・商品企画の手順を確認する。</li><li>・班で、どの商品を作りたいか考える。</li><li>・班でコンセプトを話し合う</li><li>・個人でおおまかな企画を考える</li><li>・班の中で発表しあい、次時の見通しをもつ</li><li>・数名発表する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループで広告をつくる→検討・改善→広告を市のホームページに掲載する（事業者の目にとまれば、商品化につながる可能性もある）の手順を伝える。</li><li>・「やはたいぬ」や商品のデザイン、配置、ターゲット層などを考え工夫して商品を企画することを伝える。</li><li>・目標に合った企画ができたか確認する。</li></ul>	
まとめ	5 分	○OPPシートを記入し、本時の学習を振り返る。 ○次時の学習内容を確認する。	<ul style="list-style-type: none"><li>・次時への見通しをもたせ、商品企画、広告作成するのに必要なものを持参するように伝える。</li></ul>	



消費5

## やばたいぬ活用プロジェクト～企画書～

年 組 番 名前 ( )

### 1. 商品企画の目的 ～インタビュー動画を見てきとめよう～

やばたいぬグッズを企画して甲斐市をPRする。  
消費生活にも役立つ。

**エコカル消費（倫理的消費）の視点**  
地域の活性化に貢献すると、甲斐市の応援につながる。

### 2. 何を作りたい？下の3つから選んで○で囲もう。

- ・エコバッグ
- ・タオル
- ・ノート

### 3. 売で商品のコンセプトを話し合おう。

(あなたは事業者の企画担当者です。甲斐市をアピールする商品を考えてよう！)

① 誰に使ってもらいたい？ (年代など、具体的に考えよう！)

主婦

② どんな場面で、どんなふうに使ってもらいたい？  
買い物とともに、レジ袋代わりに。

図4 「やばたいぬ活用プロジェクト～企画書～」のワークシート例

消費5

2年 組 番 名前 ( )

### 2. 商品のイメージ図や説明を書こう。

＜エコバッグ＞

おきて

うち

おきては黒で、やばたいぬの顔は白の顔です。

**・工夫点、アピールポイント**  
最近では、いろいろなカラーで、付属はやばたいぬのキャラクターのイラストがかわいいデザインになっています。甲斐市のPRにも役立つデザインです。

図5 商品のイメージ図や説明、工夫点やアピールポイントのワークシート例

## ②広告作成

図6～図8は、生徒がグループで考えた商品企画と広告の例である。生徒には、消費者と事業者の両方の視点から「やはたいぬ」グッズがどのようなもの良いか、事業者として広告でどのようなことを消費者に伝えたいか、消費者として広告からどのようなことを知りたいかなどを考えながら取り組むように促した。生徒は、意見交換をしながら企画や広告作成を行った。

商品名：国産やはたいぬバッグ

①誰に使ってもらいたいのか

- 幅広い年代の人

②どんな風に使ってもらいたいのか

- ちょっとしたお出かけや買い物、塾のバッグ、友だちの家に遊びに行くときに使って欲しい。

③工夫点、アピールポイント

- 見た目がかわいい。
- ちょっとした物を入れるのにちょうどいいサイズ。
- やはたいぬのデザインをたくさん使ったので、やはたいぬの色々な一面をみることができる。

➡

図6 「やはたいぬ」バッグの企画と広告の例

商品名：やはたいぬタオル甲斐

①誰に使ってもらいたいのか

- スポーツ、運動している人で、子供から年配の方まで

②どんな風に使ってもらいたいのか

- スポーツをした後だけではなく、日常的に使って欲しい。

③工夫点、アピールポイント

- やはたいもや赤坂トマトなどの甲斐市の特産物を書き、甲斐市をアピールした。
- 富士山を大きく書き、甲斐市から見えるきれいな富士山をアピールした。

➡

図7 「やはたいぬ」タオルの企画と広告の例



商品名：一石二鳥ノート

①誰に使ってもらいたいか

● 学生

②どんな風に使ってもらいたいか

● 右のページにはクイズがのっていて、左ページには、答えがのっているの、学校の休み時間にクイズを出し合ったり、勉強したりするノートとして使って欲しい。

③工夫点、アピールポイント

● 表紙を勉強中のやはいぬにすることで、「やはいぬと一緒に勉強している」という気持ちで勉強への意欲が増す。  
● 詳しく知ってもらいたいと思い、ノートの裏表紙にやはいぬの紹介をしている。

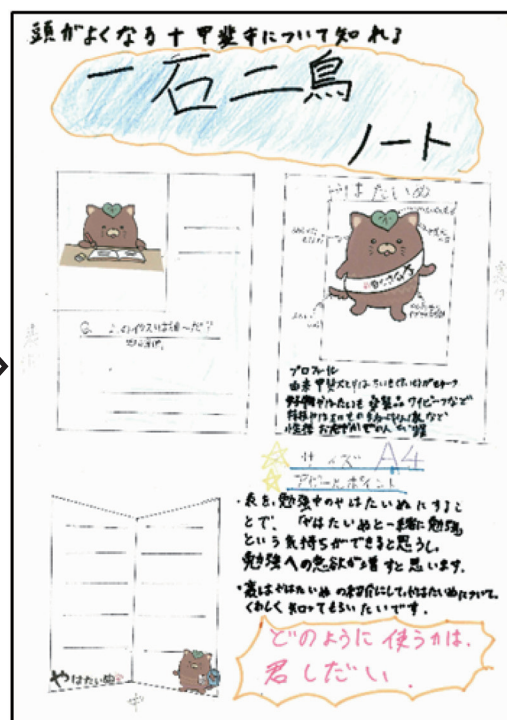
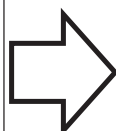


図8 「やはいぬ」ノートの企画と広告の例

### ③商品の検討

各班が作成した広告を廊下に提示した（図9参照）。商品開発の目的にあった広告ができたか、消費者として買いたい広告になっているかなど、班の中で振り返りを行った。また、消費者として、どの広告が良いと思ったのか、理由も含めて個人で考察した。



図9 広告の掲示

### （３）授業実践を行った教師の振り返り

授業のまとめでは、「商品企画者としての思い」や「これからの消費生活で心がけたいこと」について記述した。生徒の記述例は以下の通りである。

#### ＜商品企画者としての思い＞

- 広告を作るには、色々な情報や目立たせたいところを分けてつくりなさいといけなかったもので、大変だった。
- これをきっかけに、やはたいぬの知名度が上がればいいなと思う。
- 班の人と頑張って考えたから、商品を誰かが作ってくれるとしたら、大切にしてほしいと思った。
- 広告を作る側として、どうしたら売れるか、キャッチフレーズは何にしようかと考えていると、広告を作るのは大変だと実感した。
- 誰かが作った広告も気にかけてみたい。

#### ＜これからの消費生活で心がけたいこと＞

- 価格や見た目だけではなくて、できるだけ地域の商品やフェアトレードの商品を選んで環境や社会に配慮した買い物をこころがけたい。
- 生産者の想いを考えてみたい。広告だけでは分かりにくい情報を考えながら、商品を選択していきたい。
- お金と相談して、今までは、一切考えていなかった、環境にも配慮して商品を選んでいきたい。

生徒は、「やはたいぬ」グッズのより良い企画や消費者の目にとまる広告作成のために、話し合いを重ねた。生徒の記述から、事業者の苦労や、販売されている商品や広告には事業者の思いや工夫があることなどが実感できたようであった。「やはたいぬ」について調べ、そのアピールを考える体験を通して、地域への愛着心を育み、地域の振興について思いを寄せたようであった。

また消費者として、今後どのようなことに注目して広告を見るか、商品を選ぶ時にはどのようなことに気をつけていきたいか、記述した生徒が多くみられた。商品の購入が社会や環境に与える影響について記述する生徒も多くおり、価格や見た目だけではなく商品の価値やそれを選ぶ視点に気づいたようであった。エシカル消費（倫理的消費）についても着目し、社会や環境に配慮した消費行動への意識を高めていた。今後の生徒の消費生活の改善につながる学習活動にすることができたと考えられた。

本題材の学習を通じて、身近な消費生活を工夫し創造しようとする、これからの消費生活をよりよくしようとする生徒の姿をみとることができた。

## Ⅲ 終わりに

### （１）グッズの製品化・webサイトの掲載

授業後には、甲斐市市役所商工観光課主催の「甲斐市サクラまつりのスタンプラリー」の景品として、生徒が企画したグッズの製品化が実現した（図10・11参照）。

甲斐市「やはたいぬ」webサイトでは、今回の生徒の活動の様子と成果が掲載された（図12参照）。「やはたいぬ」グッズの今後の製品化に向けて、生徒のさまざまなアイデアが紹介されている。

<生徒が作成した企画書>

商品名：日常をがんばれるタオル

①誰に使ってもらいたいか

- がんばっている人

②どんな風に使ってもらいたいか

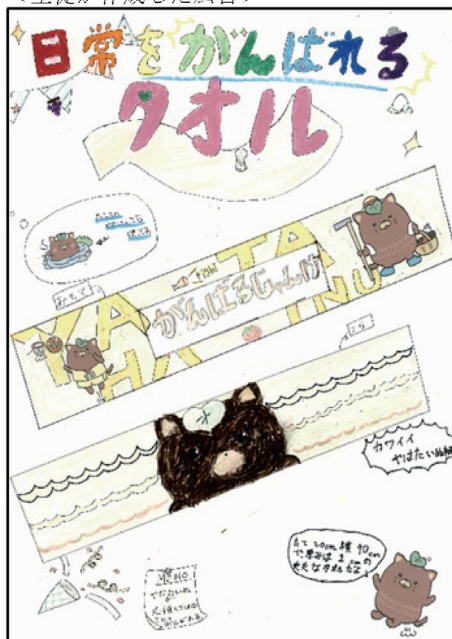
- 汗拭き、温泉・お風呂、はちまき、紫外線よけなど、自由に使って欲しい。

③工夫点、アピールポイント

- かわいいやばたいぬが頑張っている人を応援してくれる。
- 丈夫。



<生徒が作成した広告>



<製品化>



図10 タオルの製品化

<生徒が作成した企画書>

商品名:やはいぬくんエコバック

①誰に使ってもらいたいのか

- 甲斐市民や他県の人

②どんな風に使ってもらいたいのか

- やはいぬぬのことを知ってもらいたい。
- 買い物や学校などで使ってもらいたい。

③工夫点、アピールポイント

- やはいぬぬくんと分かるように、シンプルなデザインにした。
- 甲斐市の特産品のやはいぬぬと甲斐犬がモチーフになっていることが知ってもらえる広告にしました。



<生徒が作成した広告>



<製品化>



図 11 エコバックの製品化



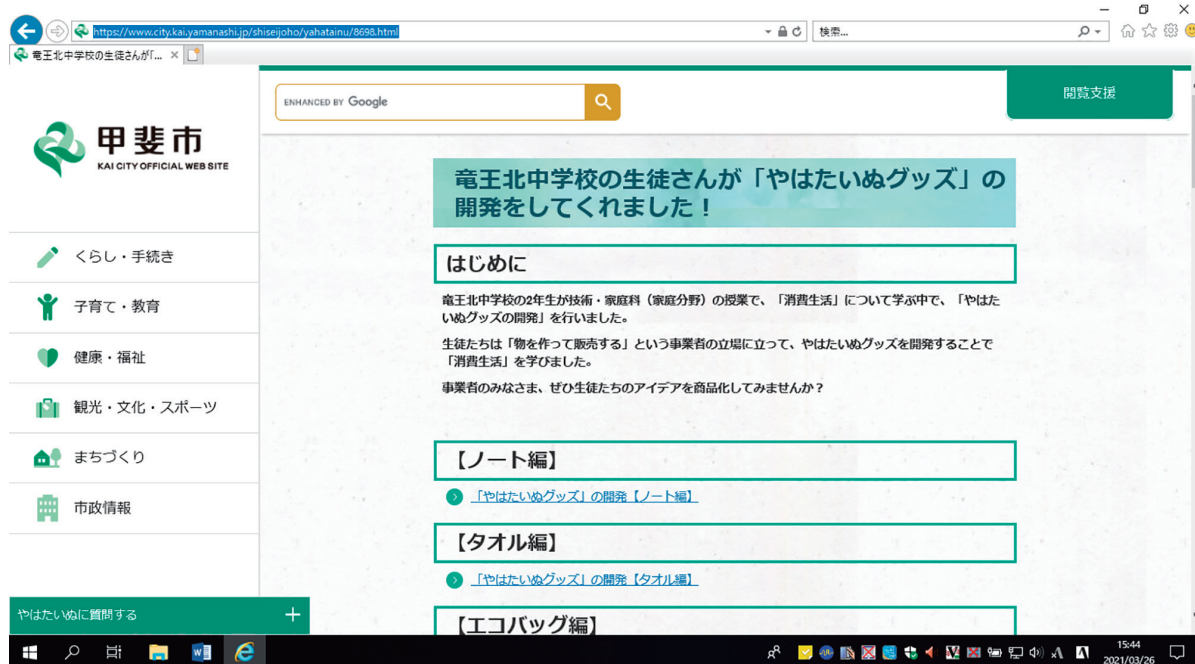


図12 甲斐市 web サイト掲載の中学生による「やはたいぬグッズ」の開発

出典：甲斐市「市政情報」の「やはたいぬ」サイト

<https://www.city.kai.yamanashi.jp/shiseijoho/yahatainu/8698.html>

## (2) 授業の成果と今後の課題

甲斐市役所商工観光課職員と教師が連携・協働して、エシカル消費（倫理的消費）の配慮の具体例の1つである「地域の振興」に関わらせた実践を行った。授業後の生徒の振り返りや教師のみとりから、地域の人と連携・協働しながら課題解決に取り組むことで、学ぶ意欲や地域振興への意識を高めることができ、持続可能な社会の形成に主体的に参画する消費者の育成につながったのではないかと考えられた。

生徒には、消費者と事業者の両方の視点から「やはたいぬ」グッズがどのようなものが良いか、事業者として広告でどのようなことを消費者に伝えたいか、消費者として広告からどのようなことを知りたいかなど、消費者と事業者の双方の視点で考える学習活動を行った。商品には事業者の工夫や思いがあることを実感でき、物資・サービスの選択に必要な情報について事業者と消費者の両側面から考えることができた。生徒は自分自身の消費生活への関心や商品購入・選択に関する理解を深め、自分たちの行動が地域社会に影響を与えているという認識を持ったようであった。

中学生の消費生活に関する意識については、各家庭の経済状況や個人の価値観にも関わる部分であり、指導に難しさを感じていた。生徒は班活動を通して様々な価値観があることにも気づくことができた。地域振興に関わる商品企画の体験を通して、商品選択の視点としてエシカル消費（倫理的消費）などのさまざまな視点があることについて生徒が理解を深め、今後の生活にも活かすことができると期待される。

今回の取り組みは、企画したグッズの製品化を目指すものではない。今後の課題として、グッズの広告企画・作成を通して何を学ぶのか、学習活動の目的について生徒が十分に理解し活動に取り組めるよう、目標と振り返りのつながりをより一層意識させた学習ができるようにしていきたい。さらに、生徒が身近な消費生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を育成することを目指して取り組

んでいきたい。

謝辞：本研究の実施にあたり、ご協力頂きました甲斐市役所商品観光課の職員の方々に感謝いたします。また、本研究の授業の一部を校内研究会で実施しました。ご教示頂きました皆様に感謝いたします。

#### <注>

- 1) 消費者庁「エシカル消費特設サイト」  
<https://www.ethical.caa.go.jp/ethical-consumption.html> (2021年8月8日閲覧)
- 2) 第2次山梨県消費者基本計画  
[https://www.pref.yamanashi.jp/shokuhin-st/syouhi/documents/shohi\\_plan\\_dai2\\_honbun.pdf](https://www.pref.yamanashi.jp/shokuhin-st/syouhi/documents/shohi_plan_dai2_honbun.pdf) (2021年8月8日閲覧)
- 3) 前掲1)の「エシカル消費とは」における「地域への配慮」の説明参照
- 4) 文部科学省「平成29・30・31年改定学習指導要領の趣旨・内容をわかりやすく紹介」の「社会に開かれた教育課程」参照  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/\\_icsFiles/afieldfile/2020/01/28/20200128\\_mxt\\_kouhou02\\_03.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2020/01/28/20200128_mxt_kouhou02_03.pdf) (2021年8月8日閲覧)
- 5) 山梨大学附属中学校「2017年度中等教育研究会」技術・家庭科（家庭分野）学習指導案  
[file:///C:/Users/vfd03/Downloads/11%E3%80%80%E5%AE%B6%E5%BA%AD%E7%A7%91%E3%80%80%E6%8C%87%E5%B0%8E%E6%A1%88%20\(1\).pdf](file:///C:/Users/vfd03/Downloads/11%E3%80%80%E5%AE%B6%E5%BA%AD%E7%A7%91%E3%80%80%E6%8C%87%E5%B0%8E%E6%A1%88%20(1).pdf) (2021年8月8日閲覧)

#### <引用文献>

- ・神山久美（2006）「消費者教育の教授法と教育効果測定の研究：通信販売を題材とした授業実践を通して」、日本消費者教育学会『消費者教育』第26冊、pp. 33-42
- ・「倫理的消費」調査委員会（2017）『『倫理的消費』調査研究会 取りまとめ～あなたの消費が世界の未来を変える～』